

ローマ字のつづり方に関するこれまでの検討の整理（案）

ローマ字のつづり方に関しては、これまでの審議において、以下に示すとおり、表記の方法、留意点等を整理したところであり、今後、その在り方の検討を深めていくこととする。

1 改定しようとするローマ字のつづり方（案）（以下「本つづり方」という。）は、現行の内閣告示（昭和29年内閣告示第1号）を踏まえた構成（「前書き」「表」「添え書き」とする）とする。

2 本つづり方は、一般の社会生活において、現代の国語をローマ字で書き表す場合のよりどころを示したもので、具体的には、表及び以下に示すとおりである。

3 はねる音（撥音）「ン」は、例に示すようにnと書くこととする。

〔例〕 kanpai 乾杯 anman あんまん shinbun 新聞 Ginza 銀座

4 つまる音（促音）は、例に示すように最初の子音字を重ねて表すこととする。

〔例〕 zasshi 雑誌 nicchoku 日直 ippon 一本

5 長音で発音される語は、例に示すように、母音字の上に符号（「^ˉ」）を付けて表すほか、母音字を並べてもよいこととする。また、母音字を並べて書くときには、現代仮名遣いと同様のつづり方を用いることとする。

〔例〕 (1)符号を付けて表す場合

ア列 kāsān 母さん mā まあ〈感動詞〉
イ列 ojīsan おじいさん nībon 新盆
ウ列 jūgoya 十五夜 Kyūshū 九州
エ列 nēsan 姉さん hē へえ〈感動詞〉
(tokēdai 時計台 tēen 庭園 Hēsē 平成)
オ列 Ōedo 大江戸 ōkami オオカミ
Tōhoku 東北 Bōsō 房総
kōridōfu 凍り豆腐 Ōtōge 大峠

(2)母音字を並べて書く場合

ア列 kaasan 母さん maa まあ〈感動詞〉
イ列 ojiisan おじいさん niibon 新盆
ウ列 juugoya 十五夜 Kyuushuu 九州
エ列 neesan 姉さん hee へえ〈感動詞〉
tokeidai 時計台 teien 庭園 Heisei 平成
オ列 Ooedo 大江戸 ookami オオカミ
Touhoku 東北 Bousou 房総
kooridoufu 凍り豆腐 Ootouge 大峠

ただし、上記(1)において、()に入れて示したイ列又はエ列の2行目に挙げたようなものは、これまでの慣用を踏まえ、「ii」又は「ei」のように、母音字を並べて書く方法が原則であるという方向を示すこととする。

6 はねる音を表すnと次の母音字又はyとを切り離す必要がある場合など、音の切れ目を表すためには、例に示すように「'」を用いることとする。

〔例〕 Ken'ōdō 圏央道 hon'ya 本屋
oo'oji 大伯(叔)父

7 外来語にのみ用いられる音等については、様々な表し方があるため、将来に向けた検討課題となるが、現時点では、参考となる考え方を示すなどの対応を検討することとする。

8 固有名詞は、語頭を大文字で書くこととする。

9 複数の語等によって構成される語を分けて書く場合には、例に示すように「-」を用いて書くこととする。

〔例〕 kun-yomi 訓読み Kutani-yaki 九谷焼 Meiji-dōri 明治通り

10 ローマ字文を書くときのために、例に示すような留意点を示すこととする。

〔例〕・書き始めの語頭は大文字で書く。

・区切り符号には、コンマ（「,」）とピリオド（「.」）を用いる。

・助詞の「～は」、「～へ」、「～を」は、それぞれ「～wa」、「～e」、「～o」と書く。

11 例に示すような外国語に基づいて国際的に通用している表記その他のこれまで各分野で定着してきた表記については、現状に混乱を来したり、不要な経済的負担を生じたりすることのないよう、直ちに表記の変更を求めるものではなく、当該表記の所管部署等において、本つづり方や対外関係等これまでの慣行を踏まえ適切に対応するものとする。また、個人の姓名、団体名等を書き表す場合については、当事者の意思を尊重するよう配慮することとする。

〔例〕 Tokyo 東京 tofu 豆腐 judo 柔道
Shimbashi 新橋 samma サンマ tempura 天ぷら
Kutchan 倶知安 matcha 抹茶

12 ローマ字のつづり方に関しては、これまで幾つかの方法で行われてきたところであり、国語を理解する上では、表に取り上げたつづり方以外の方法にも意義や用途があるため、参考として、表に取り上げたつづり方とこれまで行われてきたつづり方との対照を示すこととする。

※ 個々の表現や例示については、現時点におけるものであり、引き続き検討する。

また、長音符号については、社会実態を踏まえつつ、利便性や情報機器等における技術的な実装状況に照らし、その在り方の検討を行う。その際、利用環境を踏まえた方法の変更についての考慮が必要である。

表 (案)

ア	イ	ウ	エ	オ			
a	i	u	e	o			
カ	キ	ク	ケ	コ	キャ	キュ	キョ
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
サ	シ	ス	セ	ソ	シャ	シュ	ショ
sa	shi	su	se	so	sha	shu	sho
タ	チ	ツ	テ	ト	チャ	チュ	チョ
ta	chi	tsu	te	to	cha	chu	cho
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニャ	ニユ	ニョ
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヒャ	ヒユ	ヒョ
ha	hi	fu	he	ho	hya	hyu	hyo
マ	ミ	ム	メ	モ	ミャ	ミユ	ミョ
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
ヤ		ユ		ヨ			
ya		yu		yo			
ラ	リ	ル	レ	ロ	リャ	リュ	リョ
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
ワ				(ワ)			
wa				o			
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギャ	ギユ	ギョ
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ジャ	ジュ	ジョ
za	ji	zu	ze	zo	ja	ju	jo
ダ	(ヂ)	(ヅ)	デ	ド	(チャ)	(チュ)	(チョ)
da	ji	zu	de	do	ja	ju	jo
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ビャ	ビユ	ビョ
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
パ	ピ	プ	ペ	ポ	ピャ	ピユ	ピョ
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo
ン							
n							

※ [] は、別の仮名に対応する音と同じ発音をするため、ローマ字においては使い分けをしないものである。